



13
3415
60

十一編 五卷之内

十七

松地

勝音院

南總里見八犬傳第九輯卷之十七

東都 曲亭主人編次

第百十二回

勲功を譲りて親兵衛法會へ赴く
賞禄と後中て安房侯寒御を温む

却説荒川清澄們大江親兵衛と共侶に館山城の重郭と那這と巡檢を
那活路ある道邊へ来て茲歎と向ひて立寄りたる果て大なる石ありて半分は未埋
まらざるに石の裂け目ありて石の二片に裂けたりと所ける毫もその跡をりて清澄們が
見たり便是地道の門戸也石の二片に裂けたりと所ける毫もその跡をりて清澄們が
疑ひし親兵衛孝嗣逸時景能次團太卿三們的五六名俱に這地道より城へ
入る毎に訝り思ふるも尚ほ地方の違ふ故と找て近づて件の石をばらくと又と元
るふ裂け目ありて舊の如く合はれし石の真中におれぬやオオその迹迷りて親兵
衛急次團太と卿三を走らせり御高入りの城外の地道の石ををけるは一霎時

八犬傳 第九輯 卷之十七

東都 曲亭主人編次

あつてかゝる多。却親兵衛も報さる。那裏の石も這裏のどく裂る。処愈合。又入る。つゞ。と。親兵衛領多。清澄們。向ひて既。示。侍。り。前後の石門裂。崩。け。御。入。入。の。自。在。り。我。靈。玉。の。應。驗。も。畢。竟。役。優。優。女。塞。と。伏。姫。神。の。真。助。る。この。石。又。昔。の。如。く。一。片。の。合。ん。て。の。あ。ら。う。も。い。つ。も。倘。列。衣。れ。る。依。て。あ。ら。う。賊。徒。あ。ら。う。脱。出。て。網。を。漏。る。も。ま。ら。ん。と。然。る。便。り。を。な。さ。し。則。御。方。の。大。利。也。神。助。宜。福。ま。ま。奇。世。の。復。活。易。易。の。あ。ら。う。と。公。大。家。然。ん。と。心。で。存。一。感。嘆。あ。ら。う。登。時。親。兵。衛。又。い。ち。這。活。路。の。り。の。改。木。杓。の。忠。告。也。昔。の。城。主。が。作。り。と。後。は。這。巨。石。を。の。り。塞。だ。し。の。知。り。れ。も。何。の。故。の。塞。だ。し。也。あ。ら。う。を。漏。れ。け。れ。今。は。送。感。謝。か。ら。せ。給。へ。る。者。の。あ。ら。う。と。隨。從。の。雜。兵。們。を。召。近。け。て。尋。ね。知。れ。り。の。者。あ。ら。う。の。り。ま。あ。ら。う。荒。磯。南。弥。六。が。弟。阿。弥。七。の。夜。南。弥。六。が。館。山。の。城。入。り。と。素。藤。の。疾。を。負。い。て。那。身。の。來。介。共。侶。の。戰。殘。の。事。の。風。聲。と。も。傳。へ。り。と。素。藤。が。崇。と。怕。れ。て。家。

棄。宅。眷。と。俱。殿。臺。を。寄。隊。の。陣。當。身。と。寓。て。と。告。て。愛。顧。と。請。い。清。澄。肇。て。南。弥。六。の。一。個。の。弟。あ。ら。う。と。阿。弥。七。の。二。男。増。松。を。南。弥。六。が。養。嗣。と。せ。し。約。束。あ。ら。う。の。り。ま。ま。の。詳。し。く。知。り。仔。細。及。び。妻。も。子。も。そ。の。陣。當。身。留。め。て。扶。持。さ。れ。た。の。日。阿。弥。七。の。雜。兵。あ。ら。う。と。交。り。清。澄。が。隊。の。後。で。俱。城。内。入。り。と。尋。ね。伴。當。中。の。存。在。の。活。路。の。監。觸。と。方。僅。親。兵。衛。を。向。ひ。及。び。て。か。そ。く。報。る。や。小。可。が。曾。祖。の。時。ま。だ。這。夷。潛。郡。を。普。善。の。乙。樓。の。村。長。と。い。ひ。大。父。の。時。も。家。衰。へ。寒。民。の。做。り。ひ。へ。と。些。々。の。舊。記。も。残。り。家。の。口。碑。も。傳。へ。る。と。い。ひ。を。自。今。あ。ら。う。尋。ね。り。て。思。ひ。出。し。抑。あ。の。館。山。の。城。の。昔。上。總。介。平。廣。常。主。の。別。館。と。い。ひ。一。年。這。頭。の。平。山。より。山。屋。脱。し。今。の。副。門。の。外。面。を。圍。り。出。海。入。る。路。約。莫。二。三。町。あ。ら。う。洞。の。做。り。け。れ。城。内。より。悄。々。活。路。の。宜。か。る。べ。と。當。時。の。家。臣。們。愛。懼。と。單。廣。常。主。の。妙。と。せ。ま。二。の。老。黨。の。宣。や。世。の。武。士。の。者。の。敵。攻。ら。れ。て。籠。城。せ。し。命。運。其。首。の。

窮兵潔く戦殺す。然るに豫より城内の活路を為れる命を免れんと欲はるに準備の
 まで、躬方の出る便あれど敵も亦入る便あり。出沒素より安定るに山賊の住る洞を
 然るに準備ありし武士の家要る者も開と悉穿崩して埋めり。死益の
 事小民を勞を雜費も亦尠く。這四下の岡の邊に大なる石を築き、殊に勝れど
 擇と曳し。前後の洞口を塞ぐべし。あはれ世に生る人の疑いと若くせし。夫役の農
 夫を誡めり。秘に風聲をきき。と丁寧命あるひ。一二の老黨と近習の外あり
 意と知れぬ。小可が遠祖の當時介殿常をり。の近習にければ。知らぬとせし。と
 介殿諷死ありしより。先祖の接村へ退隱して。子孫小可毎に至るまで。十四五世も
 ひのち大父の時兵火の為。家系焼亡ひ。具不知さう。ひのち。と。親兵衛ち所
 そ。の。ゆ。ゑ。異。聞。へ。廣。常。主。の。別。館。へ。脱。路。も。と。嫌。ひ。の。我。義。兄。弟。大。山。道。節。火
 遁の術書と燔棄し。と。日。と。同。く。語。る。下。も。今。阿。弥。七。微。も。我。疑。ひ。と。解。く。よ。

あつん。寔に珍重と。只顧嘆賞あり。清澄の亦然と感して。神佛冥助の
 不可思議と畏る。中。の。清。澄。の。親。兵。衛。亦。佳。々。と。阿。弥。七。が。素。生。の。子。の。ゆ
 さへ。隨。解。示。せ。親。兵。衛。屢。點頭。現。那。兄。弟。這。弟。の。南。弥。六。を。義。俠。を
 り。館。の。先。與。小。戦。殺。す。後。ろ。ん。の。迷。恨。の。ゆ。ゑ。然。る。に。豫。任。増。松。と。養。嗣。の。約
 束。甚。妙。の。宿。老。の。凱。陣。を。望。ま。し。上。の。必。恩。賞。あ。る。べ。し。と。い。ふ。と。て
 清澄仔細及び。巡檢に且。盗賊伏誅の趣の注進を。下
 這方へ。東。ま。せ。と。ら。連。立。本。城。へ。赴。く。程。友。勝。良。干。が。龍。置。れ。と。獄。舎。既。に。焼
 亡。開。分。邊。より。遠。く。取。走。馬。場。の。藪。陰。に。新。の。塚。と。高。く。裝。て。離。松。を。栽。る。土。饅
 頭。有。け。親。兵。衛。を。尋。る。那。海。松。芽。軻。遇。八。情。地。を。埋。め。り。と。い。ふ。南。弥。六。が。首
 塚。の。茲。る。べ。し。と。思。ひ。清。澄。の。吸。住。め。城。の。良。民。を。尋。る。者。あ。り。答。て。云
 々。の。塚。の。野。幕。沙。鷹。太。が。亡。骸。と。瘞。り。を。多。し。賊。徒。の。思。ひ。と。實。の。猜。し。あ。り。と。

軒遇八情地ありのせ。荒磯が塚あり。親兵衛點頭て阿弥七を召近子。是は
 兄の塚へ冥く是を祭るべ。我も廻向とまなれを先阿弥七の持して然る清澄と共侶
 揖して目礼してけれ。高宗以下の士卒は、次園太卿三亦至るまで俱おの塚あり。朝
 ひく。合掌念佛せざるもけれ。阿弥七の只辱さる坐感涙の拭む覚其頭あり。一
 良民は感激して鼻うち擗れ老も弱も涯のあれ。竟る逝く身も忠義の與は徳の
 命と捐てそ栄と見孫小貽まれ死映ありと思ひ。徳而荒川清澄を親兵衛と共
 侶有功の諸士と領て城の正聴小集會を登時清澄の親兵衛小席と譲んと。町
 寧ろ請找め。親兵衛敢從の詞意迫る論を。燕毛の序を。我れ九歳の
 総角也。荒川主の父不第。又尊卑のり。荒川主の討隊の大將。即館の
 御名代を。我れ臨時の副將。然ると小功あれ。席と犯さ。宿老と獨茂。如れ。の
 る。是君侯へ大不敬僭稱是も甚。たる。決て從て。推辭む。清澄推

禁めて。理論の寔然ると。軍旅の序次は非常也。功ある者へ上在。功る者へ下
 在。と。那剛臆の坐の如。開と只齡と職分の等否。序次を。誰
 又命と惜まで。各王君の兒與。後の戦功を。勸ん。愚老の賊徒誅伐の仰と。稟され。と
 寸功を。因て重て。館より。和殿に。征伐を。命せ。立地。大功あり。任。王客地。易々。今
 日討隊の大將。大江。則和殿也。愚老の當副將。信れ。席と譲るとも。和殿
 干て非礼あり。誰僭稱と。然ると謙退せ。始愚老と差。我
 意不儘。親兵衛美引。論ら。争い果。高宗。逆友。雙
 方と推制め。相和解。大江氏の謹慎。臣る者の本。荒川主の謙遜。辭讓
 世の家宰の龜鑑と。我。我們。證人。枉て且同席。事と議。益
 辭讓。時を。便。不便。友勝。良干。及。逆時。景能。共。侶。勸
 親兵衛。竟。已。得。清澄。と。共。上。在。是。より。高宗。逆友。有功。の

諸士次第と追て左右側小羅列れり。但孝嗣と次園太門の家臣の列の中内れハ故意
遠侍不在の當下荒川清澄ハ親兵衛と商議して稲村龍田の兩大城へ妖賊伏誅の趣を
孝嗣と次園太卿之が親兵衛に従ひ来て軍功あり。其の顛末その来歴之寫一載
大江親兵衛が大功を首なり。友勝良干高宗逸友景能逸時們が忠戦又政木大全
孝嗣と次園太卿之が親兵衛に従ひ来て軍功あり。其の顛末その来歴之寫一載
準備亟お救ぎて家老隸の番士より那範内葉四郎も這回ハ清澄ハ従之陣中
在るも随即件の葉四郎と詰茂嘉福ハ使を課て先稲村へ遣ふ親兵衛も亦
自呈書一通を書寫けて昨日照文ハ借用する兩個の夥兵を使ひ達して俱小君所へ
まわしける。介程ハ清澄ハ殿臺を守らる。士卒と城ハ目取取へ。那里ハ要る陣營ハ
毀ちて神領と掃除せり。且乙接村の阿弥七們及素藤ハ馳入る。城内の良民と女母と
半遣りて各家ハ還えんと。猛可ハ士卒と部まで見守る。所要といふも高宗逸友

頭人より。さるる小ハ窮民ハ賑給の長ハるる。親兵衛ハ清澄ハ勸めて施
す。清澄頭より。掉りてその美ハ思老ハ豫より。心屬する。是ハ良民ハ
藤們を追放の折這館山の城ハ和殿より。城主ハ後ハ亦番士と居て重要
金の糧米より。皆是上のハ東西より。素藤ハ復叛ハ及びて他ハ掠奪者より。
いふ。下知ハ依らる。窮民ハ賑給ハ罪治ハ所ハ親兵衛推返
る。晩生黄口ハ孺子とて。信ハ鳥許され。思ハ不忠ハ似。抑歳ハ豊凶
中。困ハ治乱ハを。民ハ凍餓ハ救。是ハ仁君ハ善政ハ開。奉ハ吏人ハ自
禄ハ思。民ハ意ハ事ハ。與ハ分量ハ。時日ハ。六日ハ。昔昔ハ浦ハ
做。和漢同日ハ通病ハ。識者ハ浩嘆ハ。這城附ハ米錢ハ。下
知ハ依ら。施。餘ハ都。素藤ハ民ハ掠。積。東西ハ今ハ
も散。良民家ハ還。何。明日ハ露。命ハ。以罪ハ

獨仁が上にあつて願ふ賢老輒射の危窮を救ふて上の仁政を普く民小知ある玉
 へと詞を盡し諫め清澄言下を感服して遂にその譏を儘く良干逸時景能
 當時城附の米穀金錢の多寡を問ひ勘辨あり倉庫をうち開け餘財餘分の米
 穀をも賑給送すめ甘く阿弥七並良民們の天の徳に地小喜び擔ひ連てそかり
 也く舊所安堵をちける然る又親兵衛の是等の申言りて憶志逗留三日及びて
 四月十日あるめらけも尚事の遅く退くをゆるぎ一ふの日晡時の左側に向水五十
 三太と枝獨鉦素吉の生物の賊徒千餘名を乾兒們は牽き俱小館山城の東に
 親兵衛並干逸時景能の報る小可毎の約束の如く船を那這の浦曲に歇て大江を
 乘せて毆伏せ擯捕り一二十餘名いとの餘剛てお連る矢場海へ推階して
 殺しるものいと親兵衛逆時們のその掙を讀め勞りて清澄は吉く清澄

則雜兵們の生口毎を受令して其本来の責問を他の都て願八盆作が隊
 兵也年来虎狼の威を借りて良民を虐げける暴悪分明りければ獄舎小
 敷せけ然る又清澄は向水五十二太弟兄の身日親兵衛們を送るにけり事の趣
 既干逸時景能の少方今又賊徒を生物りて多々牽りて獻する任侠宜く賞與下
 すと五十二太素吉乾兒們の賞米五十苞合を言示して二十餘疋の馬を乾
 る浦邊まで遣りけり五十二太們の徳を辨し能りんとせ折親兵衛急を喚返して
 我い又投方我復汝達が船を棄りて舊路へ還んと欲を恩給の米一も乾兒們が船
 分ち載て去家路か遣りね汝達へ船を歇て必よ我をなれかといふ五十二太素
 吉們の果てを退ける當下又親兵衛の孝嗣次園太と商量あり却清澄不
 別を告ぐ立去んといふを清澄制りて談きやう御向もいふと云々和殿へ這回も
 大功あるを館の見参入れせり那地へとち放ち遣り且改水生の賊の頭人浅木破



清澄等の
諸士親兵衛
と共、地道の
石門乃至、破の
首塚を、見る

この出像は百
廿回中の條を
合して、緒々
面は、故に、
頁は、一、
事、なる、り

九郎と殿補。素藤不索と撰る。その功和殿の亞あり。及次國大卿三も俱不足軍功あり。和殿縮村へ伴ふて。上り重用あり。その功と思ひあらま。と云と親兵衛と云て。政木石電們が。晩生只願薦め。か。他。七。大。士。先。ち。て。仕。途。不。甚。す。欲。せ。ば。その。よ。も。理。り。な。れ。姑。且。折。を。受。ふ。且。晩。生。の。身。比。七。大。士。と。招。會。員。の。仰。を。票。て。稻。村。を。退。か。て。逆。旅。不。赴。に。不。更。不。又。妖。賊。對。治。の。御。教。書。と。成。下。され。その。使。使。登。崎。氏。不。料。も。兩。國。河。を。相。逢。ふ。と。云。は。れ。隨。即。征。伐。を。先。ち。て。賊。徒。と。討。も。夷。け。ら。遮。莫。七。大。士。と。招。會。の。先。命。は。海。果。さ。海。開。と。照。文。與。四。郎。不。任。せ。と。ある。仰。の。傳。え。且。御。向。口。王。書。と。の。と。の。美。と。上。る。その。因。に。ね。と。仰。き。と。も。七。大。士。們。と。共。侶。不。歸。參。我。宿。望。入。義。九。郎。們。不。先。ち。て。因。賞。と。給。ま。く。欲。せ。ば。意。不。自。餘。の。七。大。士。の。必。結。城。不。來。會。也。大。法。師。の。蒼。不。在。る。べ。本。月。十。六。日。の。法。會。也。今。日。よ。り。只。一。日。の。途。途。通。り。て。期。不。値。也。も。その。路。次。ま。も。出。迎。て。君。命。を。達。ま。妖。賊。既。不。對。治。せ。れて。當。城。無。異。不。民。安。け。れ。晚。生。茲。不。在。

けんろうまきくも。あ。なる。ま。ら。う。一。ま。け。か。不。と。か。の。事。決。ま。ら。う。も。い。た。と。の。い。は。く。癩。龍。襲。の。玉。と。合。せ。出。て。清。澄。お。れ。を。遮。與。て。ま。の。玉。の。後。不。又。用。る。と。あ。ら。ん。と。い。う。一。政。木。狐。の。誨。あ。の。美。を。上。る。い。ね。晩。生。一。路。兒。們。と。俱。に。解。纜。と。い。そ。べ。願。の。海。容。あ。れ。か。と。詞。急。迫。し。本。意。と。舒。く。住。る。べ。も。あ。ら。れ。清。澄。連。の。感。嘆。し。て。連。愛。死。忠。魂。義。胆。誰。九。歳。の。童子。と。い。ふ。然。ま。で。不。主。意。決。り。今。何。の。争。何。の。兄。七。大。士。と。相。伴。ふ。と。歸。參。し。今。より。弟。の。三。と。忘。く。一。霎。時。退。び。て。却。高。宗。逸。友。と。共。侶。不。失。也。折。乾。金。十。兩。と。寫。した。る。三。果。と。親。兵。衛。子。薦。め。て。い。ま。う。大江。主。あ。ち。義。義。を。表。す。が。老。拙。が。餞。別。多。の。三。果。の。大。全。氏。と。石。龜。屋。贈。ま。く。欲。ま。和。殿。の。い。ち。人。々。の。戰。功。稻。村。へ。送。る。賞。禄。莫。大。な。る。べ。不。死。下。知。と。告。げ。遣。ま。し。れ。口。の。私。情。を。表。す。の。と。公。間。不。高。宗。逸。友。の。三。果。と。推。找。め。て。俱。不。別。を。惜。ま。け。當。下。親。兵。衛。の。三。果。と。曲。々。不。受。戴。た。一。裏。と。推。返。し。て。清。澄。不。答。る。美。情。辱。く。也。と。晚。生。の。身。比。稻。村。の。首。途。の。折。上。

賜りかん金あり路費匿くもいつは是の終預けまらん但一大全と次圍大之浮浪の身えれも義士でいふを輒く受ぐは然とく是まへ返一まらば長者の好意を破るふ似たり因て晩生收め措一折をりて傳達まへ去向をいそはハ餘談を異日歸參の折の秋ひも殺中てん身の暇とありねといと遠く応答の件の十金三裏と懐の夾め退て程よは処おま一考嗣次圍太卿云よりと告げ伴か立去んとせ一程お清澄言高宗逆友の軒携りて袂を掖るいそはハ理りまれば留別の不無後をりてと薦めんと欲せ一重時住の安かといふ同逸時景能も共侶小走來て浦邊の船まら送んとて前小立後小携りて放つくもあはりしと親兵衛聽を頭と掉りて平安を異の折るら柙と執ね水と洗ひ送約の受をも致さる妖賊得囚らるるをとも残燼の冷るは願各宿老を幫助て當郡と理め私情の急務かあまると論て宅中從つ卒とまら小孝嗣們小目と注一袖と拂ひて飄然とて出ま程小孝嗣次圍太

卿云の遠く清澄們小別れの礼を盡も果せと外面小立出て後れとを親兵衛と趕々俱小從ふる支最酷う急迫一清澄並諸士們徒呆然と目送りける愆而大江親兵衛の孝嗣次圍太師弟とて多館山の城とま去て浦邊と投るいそ程小長は肆月の日甘春果て望月の影隈もければ磯山嶺に迷ひもせ既にと船まら五町許もあると思程小素子吉が蕉火と振照して迎小來身小逢ひり登時素も吉の伏家の船三艘小恩給の米と分ち載て剛才か下遣まぬと告てそが先小立て故の浦曲ま案内をま大家他と勞ひていそ路次をいそ夜酉半刻の左側小齊一船小乗しける船ま五十三太が心と用ひ夕饌の設あり小程小五十三太の今戸火盤柴折り焼は乾兒の篤高士と給事小達と親兵衛以下の客人小飯を差屋とせ程小親兵衛の五十三太弟兄小這里より水路と結城へ赴く遠近と問試し小五十三太答て然は江戸より結城へ十六里ありまの浦より西圍河まで既に知せぬと

一夜まゝと到るべ。遮莫兩國河を還りての迂遠とて路損あり。因て行徳浦赴
 け。荒河を溯り関宿より陸路と走ら。結城まで八里。荒河を漕入れ。船の扱むと
 邊り處へ有敷。水覚るやあわわ。這八個の者毎が腕の涯の掙にて明日亭午出
 下總より関宿へ漕着て。最も日長は時候より陸地とせ。結城へ到着疑
 ひる。とふ親兵衛歎いてその説をき。然るにそげとの隨高工のそく。船を
 建列してその通宵漕せ。果して十六日の曉天。行徳の浦へ来り。越お姑且船を
 歇て。篙工の早飯と炊き。登時親兵衛の孝嗣と次國太。清澄の意を傳
 へ。贈れる金三裏と合せて分ち薦めて。その金此少あるれ。窮民賑給の
 東西あり。又我君の賜あり。只那翁が各餞別とせ。それ折告知。必や
 推辭せん。然て言數多く。人の志の空ある。と思ふより。預り置ぬ。唐山前
 漢の韓信の身貧かり。時漂母の食を受る。世俗もよく知る。その金本

意のわきまも。漂母の飯勝る。願ひ收りて。明日の路費。用ひぬ。と諭せ。我
 孝嗣も。听て。思ひ。我。和殿の從之。附驥の小功。ある。國主の忠。盡
 事あり。又荒川翁の與。も。義の一字。思ふ。和殿の幫助。あり。那翁
 贈り。東西あり。受て。和殿の意。猜。受て。我。贈り。則。和
 殿の財物。も。推辭。辱。心。備。孝嗣。か。次
 國太も。亦。辭。演。受。戴。俱。金。收。徳。而。早。飯。果。五。三。太
 素。吉。高。工。母。亦。復。船。走。荒。河。漕。入。現。瀾。船。勢。始。の。邊。不
 ら。遮。莫。伏。姫。神。の。真。助。や。あ。思。ひ。早。午。出。関。宿。の。邊。不
 來。親。兵。衛。の。勒。肚。よ。圓。金。十。兩。合。中。て。五。三。太。素。吉。高。工。母。與。へ。の。や。う。
 ち。瑣。細。東。西。折。周。令。ま。這。回。和。郎。們。が。幫。助。ふ。思。ひ。隨。幸。ひ
 三。折。の。寸。志。異。日。船。路。安。房。逸。時。們。を。訪。ひ。折。我。再。會。せ。

尚又用るこあふ必館へ寄上て恩賞の功依らま。いで袂を分る。と亦五十二太
 素吉の乾兒们也皆額衝美る。その中五十二太の金のうち戴はく。噫慚愧
 館山也。昨且下れ。米米意外過分の造化る。今又信る。金を受る。本意
 る。船の乾兒们也漕かへて小可と素吉の結城へ伴仕る。いと親兵衛也
 へ否。水行を汝達の補助より便宜とされ陸地の伴の決し要る。口誼は時の程り
 やせん大義おそと旁て刀を引提て身と起せ。孝嗣次園太卿云。亦五十二太の別を
 告て俱の船より出てもを禁め難る五十二太素吉乾兒も齊一目送りて徐の船を
 返りけり。話分両頭介程の館山の城内の親兵衛們が結城へて立去りて幾程もる。
 鮫内兼四郎詰茂喜加福并の親兵衛が使价の連る。兩個の親兵と稲村よりか
 来て。隨即荒川清澄を下知状一通と三家老連署の奉翰と。遞與て首尾と告
 けり。是より清澄は有功の諸士と聚合て俱の書を披見る。第一條中も大江親

兵衛が大功と讃さる。七犬士招會の使史。照文與四郎也。親兵衛の清澄們と
 共侶の稲村へかゝる。尚性急を立去る。意の儘して好む。とあり。是より
 下の三四條也。夷瀆の凋民賑給の事。又館山の城の小林高宗田税逸友と番士の
 頭人として士卒五百名と留て守る。又清澄の友勝良干景能と共の素藤藤以
 下。生物の兇黨を牽て徐の凱陣也。但一礪時願八平田張金作。與利本膳。與利
 狼之介の外。稲村へ牽て。誅せ。追放らる。追放らる。追放らる。追放らる。追放らる。
 高宗逸友們と共の詮議。次の日賊徒の兇暴を誅戮。餘身合の難兵の罪
 輕に追放り。有徳程の素藤藤が暴虐。堪難。隣郡へ走り。夷瀆の富屋屋豪
 民の漸々。又那梶野葉門們。諏訪兩社八幡の神主。稲村より来て。各職
 就け。夷瀆の浦波。静也。館の山風枝と鳴。郡民安堵。あり。五七日と歷る。

清澄の更なる人馬を整へて友勝良干逆時景能們と共に稲村へ凱陣を然る素藤架
 宗徒の兇賊と檻車より乗し旗多羅小昇と真先おれを牽せける勢ひ奇められ
 巷街への山成して觀る者処々充滿たり任而次の日清澄們の稲村掃城して義
 成朝臣不見參し大江親兵衛が大功の事の趣妙政木孝嗣石龜屋次團大師弟
 向水五十三太弟兄の事及孝嗣の舊縁の事政木孤忠告の事の顛末又荒磯南弥
 六が弟阿弥七の二男増松の事及南弥六が首塚の事又親兵衛が靈王とて城の地道の
 石の壁に兵火の守屋の柱倒れて獄舎の隔子と推して友勝良干へ出る事本膳盆
 作し虜をちりて為体又親兵衛が仁の字の靈王の御舅大母妙真許罪を船に乗せ
 思ふ折忽然と蜚返り来て親兵衛が懐に入りし又照文の西園河原を料し親兵衛が
 逢ふ事とて御書と邊與仰せ給ふ那身の結城赴け事又親兵衛が自餘の七太士を
 相迎へ共侶のかりまゝとて葉四郎們が還る事と十五日の下晡孝嗣次團の師を

俱して水行と下總赴け心操眼前に見し事をもその崖界を越え上げ妙
 椿狸の奇は皮と薙龍衣の玉とを奪ひて這狸兎の箇様々々昔年瀧田の近邸を
 八房の天を子養けり事の始より玉梓が餘然那身の貴縁と當家の出宗と做し
 政木孤が親兵衛が告りし奇談の顛末開も靈王の威徳の事玉梓が餘然解脫し
 妙椿狸の即死をりし亡骸の毛の中か如是畜生發菩提心の八字見れ事且下り先
 政木孤の上野の原を孤龍が化して升天の奇特もて漏れ告り告稟する義成主と事
 毎に驚奇感嘆大なる身邊おぼる三家老近習の俱し側聞して駭嘆せむとの事
 耳新くも思ひけし且して義成主の清澄不宣や妖怪賊徒一時お亡びて當家土釜
 泰治に至らん則大江親兵衛が神の冥助と云ふ事亦敵を厭ふ事實の一字を
 守る事おぼる事と士卒と損れての全勝と云ふ事瀧田へおりて條々又詳し稟上
 上然も終ひぬらぬ先友勝良干逆時景能們を召し召して見参を饒一史を

杉倉氏元奉りて即便仰と修らる。武士者時運よる勢以竟究と敵の為不擒お
 らる恥お似て恥ふ。あはる浦安牛之助友勝登桐山八郎良千の神火の真助お獄
 舎と名ある賊徒と生拘りて會秘言の恥と雪め一事亦奇特と思召き宜く本領城
 安堵也。又田税戸賀九郎逸時若屋八郎景能の城を奪て命を免れ罪を他擲避
 たる。饒されたる越度る。今番大江親兵衛に従て。敵城に入て火を放ち且仙麻嘉
 六を相殺る。又その前夜西國河より親兵衛を送る。折五子天們と相計り快
 船と東の向敵地近に居る。儂親兵衛名手書おせ。恩免と請る。依り
 則し這回忠戦を。那先非と償ひ。先館山の城の頭人を罷られて。餘の舊の依り
 清澄に従て。瀧田も。老侯の死礼を景上と仰渡さる。友勝良千逸時
 景能の。恩命と拜と退の。介程お荒川清澄の。私宅と。件四
 士と伴て馬を早め。瀧田詣て。義実朝臣見参。大江親兵衛が天功素藤們伏

誅都々。稲村殿お。上する件々。二事も漏さ。告景上。妙椿狸の奇後と。雍籠襲の玉の
 申茶と解て。憲覽お備へ。義実王の。欽びと。又。教馬。大なる。皮と。亦。肉。て。原。來。那。妖
 尼。昔。八。房。の。天。と。子。娘。け。富。山。の。北。狸。で。あ。り。那。折。我。の。尚。壯。年。の。件。の。天。と。愛。る。ま。る。
 狸。と。字。の。大。小。從。ひ。里。本。様。下。り。あ。ち。里。見。の。大。言。前。非。あり。と。曾。達。て。戲。語。と。思。ひ。か。れ。い。
 悔。し。も。恥。し。批。言。是。お。疎。幽。る。狸。の。古。字。の。身。お。從。ふ。大。小。從。ふ。後。の。あ。り。今。も。猶。通
 用。也。況。玉。梓。が。餘。怨。實。縁。り。て。富。家。子。崇。と。做。す。一。の。神。を。身。の。知。り。り。亦。我。口。の
 過。る。今。玉。梓。が。餘。怨。解。脱。の。折。を。て。狸。見。も。共。お。命。終。り。その。亡。骸。の。毛。の。中。お。經
 文。の。偈。句。見。れ。い。正。お。是。親。兵。衛。が。持。る。靈。玉。の。奇。特。也。畢竟。役。優。波。塞。の。方。便。利
 益。を。ん。ら。狐。龍。の。忠。告。違。ふ。べ。く。然。ら。洲。崎。の。巖。室。代。香。の。使。者。と。ま。あ。り。又。這
 妙。椿。狸。の。皮。の。逢。坂。の。関。の。あ。る。と。栄。花。物。語。の。卷。小。ある。と。那。関。寺。の。半。佛。の。例。も。あ。れ。い。
 奇。華。慢。不。為。ら。る。大。山。寺。へ。寄。捨。せ。と。え。死。後。方。お。ゆる。小。湊。目。と。鮎。船。貝。六。郎。を

召進つて。信々と吩咐て度と目小預受の西個の近習ある果て遠くを退ける。
 現老候の仁心身仇を報不徳とてある。玉梓並に妙椿裡の善菩提をも吊る玉
 六世有る賢君を。佳川澄特に感服して却友勝良干逸時景能稲村殿の
 仰より。今番の軍功と讃め。御高成の虜にせられ或は城を没落ある其頭の事
 問ふを但論ぬ。若達を皇恩もあを竟小功績の愛され神の擁護大江仁幫
 助あり。若達年歳を増し。神佛と崇め。親兵衛を総角と必る
 侮り。若達年歳を増し。神佛と崇め。親兵衛を総角と必る
 か。一大士の這果在る。妖賊都て俘囚する。異日八犬具足して。俱安房殿を
 佐ける。必し東の八ヶ岡敵を。意不件の大士。安房殿の寶貝と
 他們が所藏の靈玉と又何を異る。今番仁の上總より。結城赴て。七犬士を

伴を必く。我の犬士と企て。既久く。宣ひ。呵々。若
 達軍旅の疲勞も。老の詩言益を。能く。龍龍の玉と清澄
 返して。暇と。友勝良干。以て。逸時と景能。存一唯々と。兼て。昔の汗の
 流る。覚む。額小席。藤の跡。印を。畏り。退け。是より。絶小一兩日。歴て。稲村の
 城内。素藤。藤を。誅戮の。沙汰。あり。浦安。牛助。友勝。登桐。山八良干。実檢使。奉
 雜兵。二百名。と。從て。素藤。並に。願八。盆作。本膳。狼之。介。們を。長須。賀多。申明。亭。の
 首級。をも。俱。小。鼻。首。せ。れ。これ。を。觀る。者。堵。の。と。肩。と。比。袖。と。列。ね。て。日。毎。小。間。断
 る。折。り。の。詰。朝。義。成。主。の。正。廳。小。さ。す。四。家。老。轉。宣。云。這。回。妖。賊。征。伐。の
 折。清。澄。高。宗。逸。友。們。の。餘。も。有。功。の。士。卒。と。ゆ。け。も。第。一。の。功。臣。大。江。親。兵。衛。と
 結。城。へ。這。果。在。る。目。今。賞。と。給。ふ。由。り。あ。る。他。と。同。じ。に。賞。祿。と。給。ふ。本。と

きて未と。有候親兵衛が帰城の折も姑且沙汰お及ぶる。其の毛隠
 かく御示しね但忽諸おあつた。夷瀆の民の艱難。他們の年來素藤主僕の奢
 侈淫樂の為お責合おられて貧乏子と賣り妻と。瀆南に富る財宝子と妻妾と奪
 まり。御清澄の館山中。大江親兵衛が薦めも。
 那里の民お賑給とゆひ。然も秋實を足さぬ。因て夷
 瀆一郡の稅斂と三稔免まべ。下知を高宗逸友お傳よか。と仰まれば四家老們と
 美敷ひ。後のおつひけり。功ある士平の理義と感。恩賞成望望。夷
 瀆の民の枯。苗の甘雨おあつた。三稔の長を。次は年より常の如く。献
 んと願ひける。然も安房上總のかく。善政愛おられ。結城の安危い。大
 先生、大法師が宿願の法。延那里成就ま。八犬集會おあつた。不や分教あり。
 昔年開手結城城。秋月春花幾十更。白妙の木綿城の庵。雪るる。年歴て

むま垣のうは花。の詩歌の意と知。欲せ。且下回。鮮分るを聴ねか。

第百十面 小築樓の一僕故主小謁せ 大庵小十僧法筵と資く

話表。姥雪與四郎。四月十日の暁。昏小一個の伴當と後へ。照文們と共侶。小稻
 村の城と四能出。折近の港口より。船お乗る。下總の市川へ。とて。連り。水路をい。死
 る。よ。夜の夜。猛可。風波。暴れて。幾番と。吹戻され。十二日の曉方。小辛。あて。上總。る。
 木更津。船と。歇留。更。順風。と。等。さ。その日。も。終。陽。海。暴れ。渡海。の。便
 宜。心。焦燥。陸路。を。走。ら。思。め。高。工。毎。今。あ。れ。風
 だ。復。ら。船。遣。る。日。易。り。ん。開。小。愁。怖。り。弓。と。弦。る。壁。言。漏。は。徒。小
 五六。宿。の。日。數。と。費。い。る。尚。一。霎。時。等。ぬ。ね。と。諫。る。言。の。理。の。日。と。ま。不
 消。去。一。個。の。伴。當。の。昨。夜。通。宵。狂。風。逆。波。の。揺。惱。され。り。一。の。苦。を。被。病

臥く。亟の役者達もあらず。左右も程の黄昏時候より。漸く風軟れて。且追風
 る。んとまされども。與四郎が伴當の心地死ぬ。覚ると。飯の準備の茶と。薦ら
 まても。甲斐の近果敢。々々。飲さる。只得陸の杖登。と。這津は。客店に留
 め。将息させて。下總へ。おく。も。管工們が。還る。比。まで。他。病着。稍。瘥。く。稻村へ。送。り
 か。せ。さ。店。小。二。小。保。を。委。ね。て。又。與。四。郎。へ。邊。へ。船。小。乗。る。程。既。不。と。日。の。暮。り
 ぐ。て。あ。る。時。候。より。風。の。宜。く。管。工。們。の。船。と。漕。出。し。市。川。を。投。て
 走。る。程。十。二。日。の。朝。船。果。て。這。里。飲。と。思。ふ。市。川。の。大。江。屋。の。河。岸。來。れ。ば。與。四
 郎。の。管。工。們。を。勞。ひ。く。那。伴。當。の。事。も。あ。ら。ぬ。さ。ら。初。裏。も。自。引。提。ぐ。船。よ。り
 出。れ。ば。管。工。們。の。そ。の。終。漕。戻。し。て。安。房。を。投。て。い。そ。程。の。當。晚。又。上。總。へ。水。更。津。の
 船。と。よ。せ。て。管。工。二。兩。名。陸。に。登。り。那。客。店。に。赴。き。與。四。郎。が。留。め。置。く。伴。當。の
 安。否。と。訪。ふ。亟。の。瘥。り。果。て。も。あ。ら。ぬ。然。ば。と。幾。も。も。任。て。あ。ら。ぬ。あ。ら。ざ。れ。ば。駈。り。て

出。し。船。小。載。よ。安。房。へ。還。り。と。の。お。よ。り。杖。け。て。船。を。載。て。次。の。日。の。曉。天。の。安。房。の
 宿。所。に。歸。着。ま。す。隨。即。稻。村。の。城。へ。と。告。ぐ。伴。の。病人。を。城。内。へ。返。し。け。り。是。の。日
 與。四。郎。の。風。波。の。障。り。あ。り。とい。へ。も。恙。も。な。く。て。市。川。へ。昨。日。着。到。さ。る。よ。り。の。稻。村。の。城。へ
 告。え。け。り。然。ば。伴。の。伴。當。の。約。莫。一。句。許。も。稍。起。る。と。い。は。れ。も。時。日。遙。く。麻。呂。に。け
 る。又。與。四。郎。が。迹。を。下。總。へ。と。告。ぐ。有。司。們。も。亦。與。四。郎。が。幾。も。も。市
 川。に。在。る。と。い。は。れ。伴。當。を。又。那。里。へ。と。遣。ま。さ。る。と。推。量。し。始。り。と。い。は。れ。そ。の
 議。及。び。只。瀧。田。の。音。音。們。の。水路。の。障。り。も。恙。も。な。く。と。與。四。郎。が。上。箇。様。と。具。し
 告。え。知。せ。り。音。音。也。單。節。們。の。警。馬。を。且。歎。び。て。日。數。程。経。旅。る。と。市。川。よ。り。の
 後。の。事。は。ま。は。り。さ。還。る。日。を。待。て。ぐ。思。ひ。け。の。間。話。休。題。介。程。と。與。四。郎。が。那。日
 依。依。が。宿。所。に。赴。き。姓。名。を。告。ぐ。對。面。を。請。ひ。折。り。東。人。依。依。の。荷。船。の。上。乗
 きて。江。戸。へ。赴。き。女。房。水。漕。の。香。華。院。へ。墓。參。ま。さ。と。告。ぐ。留。守。の。耳。の。と。疎。る。薪

炊の老嫗（きろおきな）の（まじ）高工（たかこう）一個も在（あ）りければ何を向（むか）ふても外（とち）々々（あ）已（い）らば（あ）の（ま）ま（あ）ま（あ）
 與四郎（よしろう）の親兵衛（おんべゑ）の這里（こゝ）も来（き）るや不（あ）良（ら）と目今（いま）知る由（よし）も（あ）心頻（こころま）り（あ）焦燥（あせう）と東（あ）東（あ）東（あ）東（あ）
 人の妻（つま）の還（かへ）り（あ）来る（き）る（あ）まで（あ）第（あ）一（あ）の外（とち）は術（まが）も（あ）尋思（まご）思（あ）ひ（あ）て（あ）考（あ）へ（あ）ん（あ）其（その）首（くび）を漫（ま）り（あ）て（あ）
 復（た）て（あ）それ（あ）れと期（ま）と推（お）し退（あ）れ（あ）て去（あ）の御（ご）の神（かみ）社（やしろ）佛（ぶつ）図（ず）を（あ）持（あ）れ（あ）んと欲（あ）する（あ）差（さ）る（あ）都會（とこ）の地（ち）の
 あらね（あ）い（あ）靈場（れいじやう）古跡（こせき）の親（おん）る（あ）べ（あ）も（あ）只（ただ）式（しき）番（ばん）も大江（おほゑ）屋（や）の門（かど）邊（へ）を過（あ）り（あ）て觀（あ）入（あ）る（あ）小老（せうら）
 媼（おきな）の（ま）ち（あ）と寂（さ）寞（ぼく）と左（ひだり）右（みぎ）も程（ほど）不（あ）亭（てい）午（ご）の（あ）時（とき）亦（また）復（た）た（あ）問（と）ふ（あ）依（よ）介（け）が妻（つま）
 水（みづ）濺（しづ）（あ）方（かた）繞（ま）り（あ）歸（かへ）宅（たく）の折（を）れ（あ）ば遠（とほ）く出（で）迎（むか）へ（あ）て先（ま）與（よ）四（し）郎（ろう）と客（きやく）房（ぼう）へ請（ま）登（の）一（いつ）名（な）對（たい）面（めん）
 多（お）く茶（ちや）と肴（やく）め（あ）るとさ（あ）い（あ）さ（あ）管（くだ）待（まち）特（とく）小（こ）流（りゆう）る（あ）六（む）六（む）松（まつ）富（とみ）山（やま）は親（おん）兵（べゑ）衛（ゑ）と衛（ゑ）子（こ）れ（あ）値（ぢ）
 遇（あ）の縁（ゆかり）空（あ）く隨（ま）ふ（あ）ひ（あ）出（で）る（あ）その歎（なげ）ひ（あ）を演（ま）る（あ）程（ほど）依（よ）介（け）も亦（また）か（あ）ら（あ）思（おも）ひ（あ）ける（あ）に實（ま）客（きやく）と
 與四郎（よしろう）と安（やす）く（あ）舟（ふね）の揚（あ）荷（げ）を笠（かさ）高（たか）工（こう）門（かど）に任（ま）け（あ）て衣（い）脱（だ）更（さら）對（たい）面（めん）を送（ま）す（あ）口（くち）誼（ぎ）果（くわ）
 る（あ）此（こ）法（ほ）ひ（あ）び（あ）べ（あ）う（あ）あ（あ）ら（あ）けり（あ）登（あ）時（とき）又（また）與（よ）四（し）郎（ろう）に東（あ）人（ぢ）夫（つま）婦（あ）ら（あ）ち向（むか）ひ（あ）る（あ）今（いま）番（ばん）稻（いな）村（むら）殿（だん）の

仰（あ）り（あ）照（あ）文（ぶん）と共（とも）侶（りょ）の親（おん）兵（べゑ）衛（ゑ）と召（ま）復（た）さ（あ）る（あ）使（し）を奉（ほう）り送（ま）す（あ）去（あ）向（むか）を異（あ）ふ（あ）と水（みづ）
 路（みち）とあ（あ）小（こ）索（さく）来（きた）ぬ（あ）その事（こと）の端（はた）より風（かぜ）波（な）の障（さ）り（あ）滞（ぢ）の支（し）ま（あ）の地（ち）に親（おん）兵（べゑ）衛（ゑ）が昔（むかし）
 里（さと）を立（た）立（た）寄（よ）り（あ）てもあ（あ）らん（あ）然（ぜん）と思（おも）ひ（あ）量（りやう）り（あ）事（こと）の情（なさけ）と云（い）ふと告（つ）知（し）る（あ）れ（あ）依（よ）介（け）も亦（また）か（あ）ら（あ）
 親（おん）兵（べゑ）衛（ゑ）が（あ）曩（むかし）の地（ち）から来（きた）て數（かず）日（ひ）退（あ）留（りゆう）の吉（きち）の趣（そと）且（かつ）昨（あ）の朝（あ）未（み）明（めい）小（こ）辭（じ）と當（あ）
 所（ところ）を立（た）去（あ）る（あ）隄（と）地（ち）に結（むす）城（じやう）の、大（おほ）冨（とみ）と訪（ま）り（あ）必（かな）七（しち）犬（いぬ）士（し）逢（あ）り（あ）あ（あ）らん（あ）と去（あ）向（むか）成（じやう）
 い（あ）そ（あ）だ（あ）る（あ）ま（あ）も（あ）報（あ）れ（あ）ば與（よ）四（し）郎（ろう）歎（なげ）ひ（あ）る（あ）ま（あ）ら（あ）ん（あ）便（びん）宜（ぎ）と（あ）恨（あ）る（あ）所（ところ）に我（わ）船（ふね）の始（は）り（あ）
 順（したが）風（かぜ）を（あ）て（あ）昨日（きのう）早（あ）日（ひ）早（あ）の地（ち）に來（き）る（あ）對（たい）面（めん）輸（あ）る（あ）期（ま）と値（ぢ）を（あ）悔（あ）い（あ）れ（あ）非（ひ）
 如（ごと）結（むす）城（じやう）の七（しち）犬（いぬ）士（し）來（きた）會（あ）せ（あ）る（あ）大（おほ）江（え）の和（わ）子（こ）の十六（じゅうろく）日（ひ）ま（あ）那（な）里（り）に在（あ）る（あ）疑（あ）ひ（あ）
 る（あ）既（すで）に去（あ）向（むか）を知（し）る（あ）ま（あ）ら（あ）ん（あ）長（なが）坐（ざ）の益（えき）も（あ）今（いま）も（あ）結（むす）城（じやう）へ（あ）赴（あ）く（あ）べ（あ）と依（よ）介（け）推（お）し（あ）
 め（あ）ん（あ）と又（また）酷（あ）く性（せう）急（きゅう）今日（こんにち）の中（なか）の三（さん）日（ひ）の（あ）明（めい）日（びつ）朝（あ）立（た）未（み）明（めい）とあ（あ）ら（あ）十五（じゅうご）日（ひ）あ（あ）ら（あ）とあ（あ）
 那里（な）に到（いた）り（あ）あ（あ）らん（あ）定（ぢやう）め（あ）ら（あ）る（あ）定（ぢやう）め（あ）ら（あ）る（あ）只（ただ）の（あ）終（は）り（あ）還（かへ）ら（あ）れ（あ）と和（わ）子（こ）の知（し）る（あ）れ（あ）争（ま）何（な）の

八州傳九集卷之七 七 犬養

せん風波小水路の疲勞ありんか枉て一宿留らせりとの間の水濤が準備の饌を
 りく来て推居く時分既小過たさる物欲くくそとらさる疎飯おはれと先箸と
 合もあつと給侍あつ中酒の盃餚さ竹筴魚の塩炙竹筴の歯不稱と與中抄を
 摘し御食応の町寧ふの届ゆる手長蝦然し魚米も富る御の目の柱初胡
 瓜那這株と装分る命と葛西の新茄子根芋の芋ご子のあぬ夫婦右より左
 より屢羞めり己ざり人の好意と與四郎の今ゆ推辭むとと給目定り話説
 も長らる伏姫神の冥助靈驗親兵衛が世傳亮文武の才学大功の責の趣
 又孫等が音音が鬼多單節がめさ身の幸ひ富山の神と君との恩恵
 もと有來一方説誇り依介水濤の親兵衛が這里旅宿の事の顛末又妙
 真が上りし出所もあつ百多日銷し長し思ふ所も時得りて黄昏近く
 ろ一と與四郎口得意見儘して明日と契りて去向をいそむ先結城への便

路と向系依介答てその地方より那里十七八里のいん井と船を関宿まで利
 根河を瀬ら足を勞きとて倒れと近り小可送りまおせん任用のいねとふふ
 與四郎怒り美々今宵のあふ明けり徳而次の日の曉天の依介の笠高工両三名と
 喚覚し出船の準備と做せ程水濤の亦與四郎早飯と羞めると是より
 先小與四郎の臥房を出漱せ身装ら家廟と向る房八沼蒲が水主今朝
 ひと一毒時廻向をある折昨々準備の金壹両を分ちて二裏ありと悄地も賤
 贈て退けり事情と原る小與四郎が肚裏の東人夫婦の好意と感と昨日よ
 今朝も酒飯の音待大なる祭刺船りて遙々と関宿まで送る報ひを
 做さでいさまんや然りと錢財の那人決して受が今番の猛可の旅をいざ送
 る裏小せん東西も要るまると尋思とある賻贈の一事两用して件の金を送
 措しその折水濤の心もつと程經て啓事て見出ける裏小寫せる姓名めて疑ふ



八代目大車巻十一

五

大車巻十一



八代目大車巻十一

大車巻十一

依介水
行小
與四郎
送る

よろ介

かえ

よろ介

ミ

うこ

へくもあつたれ心單々感なく已まざり當晩良人の還ると告ぐ事任々と告るを依介も亦與四郎が大方なる誠心を只顧感佩あつたけある是後の話之程與四郎のいそぐ水邊別を告て依介が儲の船から乗る折に尚暗けれど兩個の篙工も依介も力と勤し漕ぐ程に月落て鴨の啼ねが明き天のこぼ河の瀬りゆく船を三挺舟の十町あまりのやあふんと思ひ東をゆくまきける。憊而その日の下晡の船の関宿小果一と與四郎の依介の船と演相別れ獨陸地をいそぐ。絶不のりなり。一里許許しと熱燭時候あり。今宵の堺の驛の客店に杖を駐めて明る。暎と立ち出で連り小路次をいそぐる。結城まで七里身老れども尚健歩の運ぶ。椀とる。その日未牌の左側の結城の城下小果一と、大法師の草庵と里人們の尋問ふ知れりといふ若る。且且訝り且問ひ。最長なる城の町を去不候て。程の忽地後方小人ちて開け。姥雪王とていふまじ。住るの屋敷と喃々と聲高き喚被

はを。與四郎急あつた。是則別人を。豫面善れる。照文が。今回の伴當と。與四郎心鉄び。遠く菅笠を脱て引提ぐ。程の。那僕を走下腰を折め。其元然と與四郎の告る。主とて。十一郎の。這城の町を。歇店に在り。老爺の過らせぬを。喚まわす。と。いれ。迎ふ。先立。吉又の便宜と。與四郎の。幸なる。と。勞ひて。仔細と。越。向。及。案内。儘。と。舊路。立復ると。一町許。照文が。宿と。歇店。を。來て。さ。店。の。白壁。小。兼。屋。と。寫。な。は。矮。樓。見。の。一。座。棟。之。態。而。與。四。郎。の。草。鞋。と。脱。捨。脚。を。濯。び。引。け。店。の。傍。より。躡。て。矮。樓。の。上。登。り。照。文。の。這。果。在。り。宿。の。姉。嬢。が。汲。り。と。來。ぬ。其。茶。を。與。四。郎。薦。め。る。外。の。同。宿。の。客。も。き。次。の。間。の。照。文。が。夥。兵。伴。當。の。を。居。さ。し。登。時。與。四。郎。の。合。笑。る。照。文。が。向。ひ。最。早。り。蚤。崎。王。在。下。の。首。途。の。折。那。船。が。乗。り。幾。程。も。風。波。暴。れ。既。に。危。窮。及。び。と。絶。不。免。れ。上。總。る。水。更。津。の。船。

歌留。次の日の那港口に在り。只一個の伴當の病臥ま。陸に登りて其頭の客
店に留め順風と幸て十二日の朝市河より大江屋に赴き依介夫婦に對面せり。親
兵衛主の往方も知れ那人の數日那里に在り。結城の法會の値んと。十二日の朝未
明に立去るれと報られ。長談會話の時移り。東人夫婦も留められ只得那里止
宿より昨日の船り。依介高工に宿を連れ。昨夜の塚の客店に明一と七
里と走一走り未牌の時候。這城の下に來り。大法師の菴と知れ縁が
索難く。氣さ。脚さ。疲勞をまで困り。憶り。わ。身。を。わ。れ。喚れ。ま。
這便宜に。身。又。幾。の。回。を。ま。の。地。に。來。り。大。道。徳。に。逢。ひ。一。犬。士。と
來會せられ。一犬と向を照文推禁めて然りと。且听ぬ。我も亦往る。十一日の夜。艾より。
勁風劇波。漂され。船。に。杖。を。危。か。り。と。辛。を。十二日の下。晡。武。藏。下。總。の。封。疆。
る。而。因。河。漕。入。れ。風。波。心。地。と。損。れ。我。身。安。ら。り。と。那。河。原。を。船。公。の。坐。

席を借て臥を在り。その宵料を大江に仁相逢。と。沿てけれ。隨即館の御説を
傳へ。御教書と。渡。與。ぬ。れ。の。故。に。固。様。々。任。令。の時。宜。け。り。と。親。兵。衛。が。一。路。人。
河。鯉。佐。太。郎。孝。嗣。が。事。及。靈。狐。政。木。が。事。並。孝。嗣。が。改。名。の。心。操。又。石。龜。屋。次。國。太。
と。并。が。角。能。の。弟。子。卿。三。が。事。又。那。河。原。の。俠。者。と。傳。え。向。水。五。十二。太。弟。兄。並。田。稅。
と。か。く。ら。う。と。な。と。ま。ま。の。さ。ち。ら。う。と。い。さ。ん。が。ら。う。と。い。さ。ん。と。い。さ。ん。と。い。さ。ん。と。
戸。賀。九。郎。逸。時。と。苦。屋。八。郎。景。能。が。五。十二。太。許。富。居。の。事。都。て。その。日。の。更。の。顛。末。一。事。
も。漏。さ。ず。解。示。し。て。却。親。兵。衛。は。是。の。便。宜。不。快。素。藤。と。對。治。せ。り。と。十二。日。の。曉。天。又。
逸。時。景。能。孝。嗣。次。國。太。郎。三。と。照。文。が。野。兵。十。名。の。内。中。才。兩。個。を。借。從。て。那。
五。十二。太。素。素。の。吉。の。准。備。の。船。を。ら。ち。乘。り。て。上。總。と。投。漕。走。り。一。の。事。の。光。景。
今。見。る。像。く。も。做。と。ま。其。死。生。れ。の。與。四。郎。所。々。笑。局。入。り。奇。也。ら。ら。と。感。嘆。を。
登。時。照。文。又。の。事。然。ら。ず。咱。們。の。大。江。の。船。出。を。河。原。目。送。り。果。し。り。更。に。去。向。の。い。そ。が。
る。れ。疾。立。去。ま。く。欲。さ。る。の。も。宿。の。船。公。高。工。取。牌。們。の。前。夜。の。息。劇。小。駭。怕。と。と。

那地ぬけん在る者るけん開と辭せむて慌しく出でるんは人の馬留守とて
憶も天と明と程の船公夫婦奴婢們も那里より秋出て来る朝の炊又時程りて
日の出早う升りし時候稍早飯とて果たる親兵と伴當們を立て却船公別を
告大江並一路人們の房錢までも送る還して千住の方へを渡り徳北の御
士とせり水垣夏約許立より七個の犬士們的のを回ん思ひ甲斐多不知察内の跡
十町許約過り始めて人の回せよとて過り後とて悔し思へ且試し伴當を走
りて下りせんとせんと咱們と以下の兵毎の路傍る茶店へ憩ひて在り心利する伴の若
黨直塚紀二六と喚ゆる小意表と示し使と課て水垣許遣りける等といふも平响
るも紀二六を争りて来て那里の動靜と報るや小可那御士許赴てお使のよ
言示。那七個の犬士達の今も逗留するやと問試し知事と答て左右の事の実を報
べりもあつたはれ小可猜しと毫も礙議せむ則里見の御内入る。蛸崎王の使るよりと

詳し解し考へて那毎の疑ひ釋けん水垣の家は老僕も世智衆と歎喚ゆるが
玄関の立止て小可うち向ひ情を報るや。蛸崎王の御姓名の豫知のひひ隠
まへもひも尋の七犬士の春より久くあゝの処逗留して在り結城を、大庵の
法會のいで値んと今朝早天四月十五より方去りて那地へ赴給ひ折々東人
残る猛可中風の大病也半身不遂のひひ餘之七も那人々と俱に結城へてこ
ゆる只小生們一兩名犬士達と二里あまの送りて方僅還る。と紀二六あろ
ゆて開胸苦し御病厄早の平愈し祈りて昭文の君命也件の法會代持の
去向とて旅をたて御安危と問まわすも克の答かまふ犬士達と俱に必
訪ひまらめもの宜く稟し却、大庵の結城也。那方へはと問へ世智衆然
ひの比小生の犬士の使を兼りて。那草庵へ詣りて故ありて、大道徳の面談仕
らる本意をくかす者れば事朦朧相似るもの。件の庵の城下あまの乾浄る

茂林中那締貫る柴門と那精舎ありぬれ地方不知る者稀るれ糸難を
あらん遮莫城下より西の約莫十町許ゆく只那嘉吉の古戦場と聞せぬ
紛れあつた。とつ紀二六ある果て走りかゝる。恁々として咱們報へ亦復言
便宜とゆる。恁て這夜の糟壁る。客店も明し。次の日早且宿を連り路
次とて程も時比及ぶ。あつた地も来着し。件の嘉吉の古戦場と人々向を
る紛れもあつた。既めて誨れる茂林頭も来程。料も一個の法師も遇て
我又その法師も、大庵と向試し。法師答て開は這里より遠くもあつた。樹粒
深けれ迷ひぬ。愚僧も那里もぬ。這方へ来ませと先立て導く。三町許
果して樹粒の間ある処も締る草の芽あけの登時法師の咱們をさる。糸あふ
大庵の則這里でゆる。咱们的歩を早めて找と近死飲ひを演る。法師の
望あま。躬く樹影陰に入るとあつた。忽地とえざる。あけの。恁而咱们的紀二六も呼門

縁頼の障子の用はあり坐席の才九尺も過る。前百六尺許
佛壇の笈佛あり。中央一個の地炕。用いて席薦五枚布儲け。庵主を佛
壇の邊に端坐し。大塚大山大川大田大飼大村の七賢士面識り。識る
るも左右二側も坐と占て在り。閑談する。以彼俱も咱們をさる。あつた。と
むりも片寄て席を譲れり。登時咱們も圍坐入り。大川大田大村の初對面
口誼互不疎る。又大田大飼の元就中。大塚大山。石木以来恙る。再會と
祝し。祝され却今番當精舎の法會。就瀧田稻村兩館の御代香を仰付れり。参
向の事の顛末。瀧田の老候。年来の御本意。不稱せぬ。あつた。の趣と。大法師も修連
あ供親の時日と問る。公私の話説。及びける。王客の喜悦。いへうもわ。余程も七尺
士。大坂大山の復讐の事。及水垣残三。夏初落船。餘之七有種。們的素生。義侠の
事の趣。又河鯉守如。その子孝嗣の事。亦賊婦。船虫。媪内。が事。善悪。成敗。箇様。をさる。

任々ゆひにたゞの崖略と解示されて、大法師と共侶別後の動静と問れり。彼
們則大江の奇談那人富山老侯の危難と極いなり。その事の始より伏姫神の真
助靈驗和殿夫婦兩個の娘婿連再生の天助善報兩個の孫三出生の奇異洪福又
那神餘滿呂安西出来介復五郎九三郎南弥六隊八們が帰服の事而館の仁
政四家老の良佐言の素藤が叛逆義通君の宮躬陀妖尼妙椿が幻術に至るまで都て
大江が智勇大功君臣の得失素藤と恩赦並に再叛の爲体且妙椿が幻術の親兵
衛と遠離る友間の事の趣清澄討ちの大將を奉りて館山の城と攻伐とも全功の
たわぶる事又友勝良干逆時景能の浮沈の事南弥六出来介が戦死濱路姫の
二度の厄難と姫神擁護の示現より館の疑い解させめて多く親兵衛を召か
且七個の武士の在処を索しておとと殿と咱們の招會の兒使と命せられ自他の
去向と異ふと水路をいそぐ事の崖略約是までの數箇條は既和殿の知る如く

一事も漏さず告知らして又咱們の西園河原で大江の逢ひける宵の首尾孝嗣次園
太卿云事靈狐政木が奇特の忠告又向水五十二太素も吉逆時景能の來歴の箇
様々々係々と解し大江の素藤誅伐の御教書と賜て孝嗣並に次園太卿之逆
時景能を相伴ひてその曉天五十二太素も吉が準備の快船ふら乗て館山と投て
漕走するも別路の終まで言詳告る庵主は七個の武士とく駭嘆一々感
佩せざるのみ大江の上和殿の事死中お生とあけ伏姫上の神恩灵感我君御
父子の賢明武徳も又今あらふら仰ぐ鉄ひあきて感涙の技むと孰も覚ぬをふ歎唱
涯りるけり。當下咱們の大法師の兩館の御説は且七個の俊傑も御教書を處
與しおれん。武士們俱も受載に。在下們の年來貴命を辨ひたりし時至る故
るの凡宿因齊一義兄弟の目足せされたるを春に至りて大阪毛野の逢ふ
て七名まで聚令か。獨大江親兵衛が存亡死活を知りてるは世に慨し涯りる

夫豈料んや那神童伏姫神の真助や。甚四郎音音を娘們さ皆他守
 傳多六稔富山養れ心術さ身長大人備さ一のさ君侯御父子仕
 して莫大の功あらんか思ひ多る柄我七名。稔以来百折千磨の六窮厄艱苦哉
 凌沁て恙多り一皆姫神の真助や。感激の外は去るれも芳きものさ。一
 介の功あり孰九歳の總角親兵衛恥ざらんや。開き明君の棄ぬる今又御書と
 賜りて招きぬ六倒の面目似て面伏之恥兼當感仕の取異口同様や。陪話と咱
 們听々尉然そ然る宣ひそ窮達時あり。采辱遲速あるとも。八個の武士甲乙たり。そ
 中大江生仁字の玉とゆら甲斐一仁進て餘の七は道を本意の自然の道理老
 侯の我を感悟あり。當館も亦御同意を今一大士とゆるさ。かの如く大功あり。八代も
 取合る。関の東敵あり。一日も二秋も異なる。かの我と思ひ。庵主も俱不諫めて。蛭崎生の意見あり。推し行脚二十餘年。辛く七忠孝七

仍の手を綴る。尚關處仁の二玉大江の在処を知らる。君の御用お達た
 ける那人既安房在。拙僧他導されも伏姫神の引接。君の御用お達た
 是。我おもあり。小異る。かの理りて推し。素足分身同因果る。八士も前後輕
 重わらんや。開き今ゆら功あり。功あり。大江の大功の賞とて。城
 主のこれ。敵の及回中ら。遠く他御遣けれ。一旦孤客とあり。日の始り。功
 あり。去る。と。思ひけ。君侯の疑。解。各。是。同日の。沙
 汰。各。速。造。化。の。黙。如。人。智。量。の。恥。要。と。あ。り
 ぞ。論。其。七。大。忽。地。胸。豁。け。俱。不。微。笑。て。現。愆。て。あ。や。ま。ち。親。兵。衛。が。大。功。は。我
 們。之。用。ひ。を。さ。る。推。並。て。虚。名。の。勇。士。と。い。れ。ん。の。意。不。這。回。も。親。兵。衛。の。復。素。藤。を
 生。拘。て。館。山。の。城。と。拔。く。る。べ。し。の。俱。不。親。を。改。め。誑。意。兼。り。の。法。會。果。を。道
 徳。俱。て。安。房。へ。ま。り。て。年。來。の。恩。招。と。謝。し。な。ん。今。ゆ。存。細。の。齊。一。畏。の。を。

稟^{まう}け^て登^{のぼ}り時^{とき}咱^{われ}們^らの庵^{いほ}主^{ぬし}向^{むか}ひて今^{いま}番^{ばん}兩^{りゆう}館^{くわん}より寄^より寄^より御^ご香^{かう}奠^{でん}の丸^{まる}布^ふ施^せの料^{りょう}
 物^{もの}の目^め今^{いま}邊^{へん}與^よりまゐりせんを向^{むか}ひ庵^{いほ}主^{ぬし}頭^{かぶ}と掉^おしてそ^{その}履^{ついで}のるゝを^を如^{ごと}く庵^{いほ}
 られ然^{しか}る東^{とう}西^{せい}と措^かく処^{ところ}御^ご香^{かう}奠^{でん}の供^{くわう}親^{しん}の折^せ塔^{たつ}前^{まへ}に備^びなり布^ふ施^せ物^{もの}の事^{こと}果^はて後^{のち}
 貧^{ひん}人^{にん}を児^こ取^とりて姑^こ且^{かつ}預^よけまゐりせん松^{しょう}僧^{そう}の春^{はる}當^{たう}所^{じよ}ふ來^きて草^{くさ}の庵^{いほ}を締^ひむる會^{かい}
 佛^{ぶつ}の外^{ぐわい}の地^ちの人^{にん}と言語^{げんご}を交^まへとあゝ然^{しか}れども今^{いま}日^{にち}の珍^{ちん}客^{かく}の七^{しち}大^{だい}士^しと和^わ殿^{でん}の一^{いつ}雲^{うん}時^じ勤^{きん}
 仍^{なほ}の鉦^{かね}を止^とめて閑^{かん}談^{たん}せざるを^を憶^{おも}ひ時^{とき}を待^{まち}て既^{すで}に黃^{わう}昏^{こん}の夜^やなり今^{いま}宵^よの空^{から}
 們^ら共^{とも}侶^{りよ}且^{かつ}旅^{りょ}亭^{てい}の退^{たい}して大^{だい}後^ご男^{なん}朝^{あさ}來^き會^{かい}まゐり大^{だい}念^{ねん}佛^{ぶつ}の結^{けつ}願^{げん}の十六^{じゅうろく}日^{にち}已^{すで}牌^{はい}の松^{しょう}僧^{そう}
 這^こ回^{かい}の大法^{だいほう}事^じの惟^{ただ}貴^き見^み殿^{でん}の與^より當^{たう}地^ちの城^{じやう}主^{しゆ}結^{けつ}城^{じやう}氏^し成^{せい}朝^{てう}主^{しゆ}の告^つ知^ち況^{きやう}の
 下^{した}なる城^{じやう}内^{ない}の士^し庶^{じよ}の^の城^{じやう}下^げの寺^じ院^{いん}町^{ちやう}人^{にん}の幫^{はう}助^{じゆ}と請^こむる縁^{えん}も是^これ本^{ほん}來^{らい}の真^ま面^{めん}
 目^めの年^{ねん}來^{らい}の情^{じやう}願^{げん}と送^{そう}の意^い衷^{しゆう}の異^い日^{にち}聲^{せい}の^の小^{せう}庵^{いほ}多^た客^{かく}と宿^{しゆく}かゝるゝと罷^まるゝ
 やと出家^{しゅつが}氣^き質^{しつ}の飾^かりたる示^し教^{きやう}の大家^{だいけ}諾^{だく}を告^つ別^{べつ}り共^{とも}侶^{りよ}の城^{じやう}下^げの町^{ちやう}へ退^{たい}りけ侍^{ざう}り咱^{われ}

ら^らの^の外^{ぐわい}回^{かい}の^の野^や兵^{へい}と伴^{ばん}當^{たう}と徒^とて七^{しち}大^{だい}士^しと俱^くに這^こ里^り來^きて那^な這^こと宿^{しゆく}を擇^{たく}て
 隔^か昨^その夜^や分^{ぶん}の^の遠^と小^{せう}衆^{しゆ}屋^いの矮^{たい}樓^{ろう}の在^あり七^{しち}大^{だい}士^しの法^{はふ}會^{かい}の折^せの服^{ふく}と整^{せい}んと昨日^{きのう}を
 隣^{りん}町^{ちやう}の錦^{きん}糸^{いと}店^{てん}の^の絹^{きぬ}と買^かひ合^あひ刺^さ縫^{ぬい}と誂^あらへ程^{ほど}の^の一^{いつ}美^みと日^{にち}と銷^{しょう}す
 去^きるは七^{しち}個^この大^{だい}士^し們^らの和^わ殿^{でん}の便^{べん}宜^いと穿^くり他^たも必^{かなら}ず地^ちの庵^{いほ}へ不^ふ知^ち案^{あん}内^{ない}で大^{だい}庵^{いほ}
 索^{さく}難^{なん}ぬるもの^の入^いり這^こ里^りあて他^たと^の漫^{まん}然^{ぜん}を^を做^ぞす^の及^{およ}て路^ろを^を遇^ぐふもの^の先^ま
 那^な庵^{いほ}へ赴^すいて昨日^{きのう}の勢^{せい}びと稟^{まう}ま^まか^か錦^{きん}糸^{いと}店^{てん}の^の立^たちて衣^い裳^{せう}の刺^さ縫^{ぬい}を催^も促^{そく}え
 と^とい^いて^て午^ご飯^{はん}と果^{くだ}も^も連^{れん}立^たて出^でて^て我^{われ}們^ら王^{わう}僕^{ぼく}の^の詞^し敵^{てき}も^もう^うけ^けは^は徒^と
 然^{しか}に堪^かぬ^の這^こ矮^{たい}樓^{ろう}の^の那^な窓^{まど}の^の身^みの^の只^{ただ}單^{だん}外^{がい}面^{めん}の^の住^{ぢゆう}復^{ふく}の^の稍^{しやう}久^{きう}くも^も長^{ちやう}觀^{くわん}て^て在^ありけ
 程^{ほど}の^の和^わ殿^{でん}の^の似^にる^の旅^{りょ}客^{かく}の^の像^{ざう}忙^{まう}の^の過^かる^のの^の戴^{たい}の^の深^{しん}深^{しん}に^に回^かり安^{あん}定^{てい}不^ふ足^{そく}な^な被^かる^の來^き
 衣^いの^の色^{しき}と^と皆^{みな}と^と袖^{そで}の^の花^{はな}舞^まの^の首^{くび}途^との^の折^せ認^{にん}記^きの^の更^{さら}る^のと思^{おも}ひ^ひ早^{はや}伴^{ばん}當^{たう}を^を走^{そう}ら
 走^{そう}り^て果^{くだ}て^て錯^{さく}の^の大^{だい}山^{さん}竝^りの^の六^{りく}大^{だい}士^し們^らの^の程^{ほど}を^をか^かる^の時^{とき}候^{こう}且^{かつ}甘^{かん}坐^ざて^て坐^まり
 夫^これ^の大^{だい}傳^{でん}七^{しち}郎^{らう}卷^{くわん}十一^{じゅういち}

宜定お珍重と。祝しく具中告も。長談脩話を長しと思ひ耳に敬はる。與四郎屢點頭を。頭を叩果て貌を更け且飲ひ演る。言腐爛くいふ。今番大士と招會見の使を命ぜられ。死身を下るもの。死身の國王譜弟の御家臣在下の亦道節の舊僕。新故の卑の差を承る。且死身の年來大士と招會見。水火を避け。諸國を編歴度々泊り。這回在下先。大江も逢ひ六七の大士。御誼を授け。死身の才御代會の役。本意を承る。事皆序次あり。階級あり。是の亦伏姫神の神謀。下る在下。死使を奉り。大江の逢逢。死身後。大士面會あり。いひも。鈍れ似れ。異日道節。相俱くと安房へ還る。此上。百目望足。謙退。誠心。照文連の感嘆。餘談。及び。浩処。信乃道節。莊介。毛野。大角。現八。小文吾。七。大士。共。侶。の。階。子。徐。ら。登。り。齊。一。坐。席。入。折。道。節。の。逸。早。與。四。郎。を。見。て。世。四。郎。飲。恙。も。死。好。も。多。れ。幾。も。向。照。文。揖。讓。と。信。乃。們。俱。

坐とられ。餘の大士。信乃。莊介。現八。小文吾。荒芽。出。相識。い。毛野。大角。焼雪。雪。より。是。い。く。と。再。會。の。情。義。を。演。或。初。對。面。の。飲。ひ。を。舒。る。と。與。四。郎。只。額。衝。心。て。坐。感。涙。の。杖。む。覺。照。文。ま。ま。を。の。意。と。猜。して。先。道。節。們。小。恁。々。と。與。四。郎。亦。水。路。を。風。波。の。障。り。あり。却。市。河。赴。て。依。介。夫婦。親。兵。衛。去。向。を。の。地。と。雪。より。路。次。を。承。り。末。の。け。照。文。を。出。し。招。は。せ。大。士。們。俱。旅。宿。事。の。趣。又。親。兵。衛。が。ま。不。解。示。さ。條。々。と。生。れ。道。節。餘。の。大。士。們。の。見。便。宜。と。飲。ひ。の。登。時。與。四。郎。頭。を。拾。ひ。て。恭。ま。先。道。節。の。朝。ひ。絶。て。久。見。參。み。恙。も。あ。る。と。一。ま。ま。飲。ひ。短。に。詞。の。聲。を。承。り。小。可。音。音。兩。個。の。媳。婦。們。が。再。生。の。吉。の。趣。の。登。崎。手。告。の。知。召。れ。去。り。死。の。言。省。み。左。右。の。伏。姫。神。の。真。助。生。る。身。の。幸。の。思。ふ。も。只。心。苦。し。君。先。の。先。の。富。山。を。出。始。り。料。ら。國。主。御。父。見。參。入。り。身。で。御。杖。持。の。下。の。召。措。れ。刺。今。番。登。崎。主。共。侶。の。傳。大。事。の。死。使。を。奉。り。ひ。ひ。鄙。語。

やせり馬の過る荷及の高はる猶も重なる嚴命の免れを察すも。故大江腋子俱して
 世の那日もの數るねる我通稱の世四郎の世と與改めて與四郎と喚れは。ある惶も君
 が名乗與の與の一字と賜り心操を以ては。君御名代の身の逸早く安房不在の世
 四郎さる君が名の一字と戴く名頭を故と忘れぬ愚僕が本性の多を饒まきあかし。
 いそくと線返ま道節听り感嘆して。通愛の忠義の用心我名の一字の所為未儘ん
 と。その左も右ものさ。同く與四郎の與を改めて代の字の做す。即我代の義あり又與の字も
 捨る今よりして。燒雪代四郎與保と名告るが。保の則。借平の借とは。那同訓の共の
 昔ととれ。その誠心と後々も。識者示は。是のぬ。借のいへも。今も我も和老の里見殿の
 仕まれば。朋輩況我。我八名を招きぬ。副使と雪け。上座置。該我れも。御説。並。御教書。
 最。養。崎。生。の。賜。り。と。美。り。後。る。今。又。席。の。高。低。と。論。せ。る。も。あ。ら。ぬ。養。崎。主。守。國。の
 折。る。も。と。以。兩。館。の。兒。執。成。と。願。ふ。も。と。然。與。四。郎。の。面。目。の。身。餘。感。涙。を。復。禁。

めあむ。照。文。を。ち。て。の。趣。誠。小。介。之。都。て。あ。る。心。と。志。と。ま。が。六。大。士。門。の。果。断。愛。と。死
 道。節。が。意。見。の。好。と。を。諾。る。け。然。是。も。與。四。郎。の。通。稱。の。字。と。改。め。て。燒。雪。代。四。郎。與。保。と
 名。告。る。の。道。節。と。主。僕。の。礼。儀。と。失。て。親。兵。衛。餘。の。大。士。と。も。い。う。も。多。く。敬。ひ。り。却。こ
 折。小。文。吾。代。四。郎。を。慰。め。て。荒。井。山。の。て。曳。車。節。と。趕。失。ひ。折。の。又。親。兵。衛。と。他。們。一。家。が
 六。稔。富。山。小。神。の。加。護。听。つ。隨。ふ。云。と。い。ふ。も。お。れ。莊。介。們。次。固。天。を。考。願。る。舊。と。語。り。新。と。死
 言。の。交。り。果。も。死。を。信。乃。の。制。め。道。節。と。俱。照。文。小。告。る。我。們。今。日。も。大。庵。赴。は。く
 庵。主。の。勤。行。暇。ある。折。一。霎。時。相。譚。ひ。つ。ち。听。い。ひ。と。不。思。議。の。い。ひ。知。る。如。く。大。法
 師。今。番。の。法。事。の。他。の。施。主。と。求。ま。ず。當。地。寺。院。の。報。て。宗。門。の。幫。助。と。借。入。と。欲。せ。ば。只。獨
 坐。二。念。小。稱。名。看。經。の。外。他。事。多。し。昨。日。黃。昏。時。候。の。年。子。有。餘。る。法。師。の。徒。弟。八
 九。名。と。從。へ。來。て。大。法。師。と。談。言。を。杜。僧。の。這。結。城。る。某。甲。の。院。の。住。持。の。聞。く。庵。主。の。嘉
 吉。の。ひ。當。城。没。落。の。折。戰。歿。る。大。將。士。卒。幾。方。の。忠。義。の。靈。魂。普。提。の。與。ら。る。春。より。と



八代傳大車卷十一

大正三年

數十日常念佛間斷多。那諸靈魂の亡日。本月の十六日供養と遂めあむ。其時僧微力
 薄学をれども。開と灰の夢より。欽びて寝れ。供養の式を幫助し。與に推て愚忠を告ぐる。
 本日供養の石塔波。其の什麻をせ。その備あ。その西の。相心した巨
 石あり。昔其頭。細流あり。一時土民の架。石橋多。今埋れて土中存。是等。主の智
 石を。造りて。石塔波。做す。宜。召俱。一。徒。弟の内。中。石工の技。做も。任。用。の。智
 と。最。町。寧。小。來。意。と。示。して。石。あり。祭。赴。持。一。來。身。鋤。秋。金。の。穿。起。と。三。尺。許。果。一。々
 土。中。の。長。九。尺。有。青。石。と。四。回。五。六。尺。有。石。兩。三。隻。有。徒。弟。們。是。と。穿。出。して。水。汲。て。土。を
 洗。流。し。其。通。宵。塔。波。波。為。る。速。多。と。の。う。も。あ。む。曉。約。時。候。の。文。字。を。送。も。う。彫
 果。て。隨。即。庵。主。指。揮。を。請。ふ。樹。粒。隙。有。程。と。外。件。の。石。塔。波。と。ま。け。の。細。の。精
 妙。の。只。一。夜。分。の。落。成。の。奇。特。の。庵。主。の。敬。馬。に。感。して。衆。僧。と。勞。ひ。茶。と。薦。ふ。か。は。の。之。に。て
 よ。め。の。喫。ま。む。供。養。の。折。の。復。了。を。束。め。と。告。別。て。比。皆。共。侶。の。そ。く。か。の。去。り。と。ぞ。大。道

德の件の特異。我。們。の。解。示。て。建。石。塔。波。を。存。せ。し。小。實。是。九。作。を。意。志。小。權
 者。の。所。為。る。因。て。我。毎。商。議。を。う。今。番。兩。館。も。奇。を。あ。り。布。施。物。の。遠。路。の。故。代
 金。を。一。庵。主。の。素。も。無。然。の。死。東。西。の。要。多。う。然。と。半。分。と。甘。甲。寺。の
 師。徒。十。口。の。是。を。施。去。又。其。半。分。の。米。小。易。錢。を。兌。て。の。施。の。布。と。衣。則。是。本。願
 主。の。功。德。を。美。し。以。庵。主。告。旨。向。試。の。大。師。欽。大。なる。を。其。の。官。來。多。う。登。崎
 生。商。量。て。多。相。計。ひ。ぬ。ね。の。餘。日。な。れ。か。る。米。穀。經。紀。と。錢。鈔。兌。の。肆。店。
 立。よ。て。信。々。と。吟。附。の。程。を。考。へ。の。其。を。相。計。ひ。ぬ。う。言。れ。照。文。諾。して。御。咱。們。大
 庵。主。赴。折。奇。法。師。の。空。内。を。あ。り。其。秋。の。後。秋。評。け。れ。の。代。四。郎。の。奇。と。稱。を。て。米。穀。經
 紀。の。程。の。日。も。暮。て。那。錦。紗。店。も。昨。日。七。大。吉。詭。言。暗。の。衣。裳。刺。縫。て。都。て。來。ぬ
 け。又。米。穀。經。紀。の。兌。錢。兌。も。大。吉。指。揮。從。て。主。管。者。各。一。名。小。厨。張。燈。と。兼。の。來。ぬ。け。の
 照。文。又。七。大。吉。と。商。量。と。布。施。物。の。代。料。百。金。を。と。兩。個。の。折。折。却。五。十。金。法。會。の。幫。助。を。ぬ

とい。那法師の布施不足、残る五千金と分ちて、千金施米の價を遣し、千金銭を米
 せん。茶をえりて、
 も銭も明の朝辰牌か、大庵を送れ、那庵のあ地方、町堂の誨をせ、外兩個の主管のある處を
 かねて受命なり、実を寫し、呈請して、俱に宿所へ退り、當下又照文、大士と相計り、施の儲
 好と、いふ。返途、不知せ、詣來ると、巧るんとて、楳可、五守る。紙牌百枚許、施のゆを
 寫さる、人言はれ、時、信を立、地、寫果、照文、隨即、伴當、親兵、們も、吟、吟、下の、宵、件、の、報
 條、際、備、樹、の、幹、と、或、町、の、門、柱、貼、け、の、餘、り、明、見、晝、餉、と、店、に、示、る、る、る、を、て、又、焚、
 せ、と、誂、え、る、又、燒、香、の、折、用、の、錢、兩、邊、の、席、を、と、り、朝、用、買、え、と、准、備、送、り、整、程、の、旨、の
 夜、身、短、く、寝、る、間、の、あ、る、明、け、は、信、而、照、文、大、士、們、俱、に、浴、湯、一、梳、り、早、飯、果、て、二、千、餘、個、の、主
 僕、歇、店、を、立、出、て、大、庵、を、赴、け、畢、竟、金、碗、一、大、法、師、三、十、餘、年、の、宿、念、成、就、一、先、古、追、福、大、念、佛、の
 結、願、供、養、先、景、の、出、像、と、よ、載、れ、る、猶、詳、し、知、る、欲、せ、開、け、又、這、下、の、果、鮮、分、る、と、聽、終、り、
 南、總、里、見、八、天、傳、第、九、輯、卷、之、十、七、終

清香 梅の雪 奇藥 一色七十二孔

第一酒の毒消ふよ

は、梅、の、雪、は、中、に、あ、る、り、
 け、れ、て、白、ひ、梅、れ、か、ら、り、と、あ、り、
 り、あ、れ、れ、と、あ、け、一、又、は、痛、
 め、ま、い、ま、い、と、い、れ、い、ま、あ、り、は、く、あ、れ、た、あ、り、ち、り、

相の箱入 花橋 六十四銅

古今無影の山化粧水 丁子屋平花橋

賣所 江戸大傳馬町 二丁目中程

